

2024年9月27日

袖ヶ浦 LNG 基地が環境省「自然共生サイト」に認定

東京ガス株式会社

東京ガス株式会社（社長：笹山 晋一、以下「東京ガス」）は、袖ヶ浦 LNG 基地（所長：城所 秀樹）の緑地について、本日、環境省より「自然共生サイト」に認定されました。

東京ガスグループの保有する区域が「自然共生サイト」に認定されるのは初めてです。

環境省は、30 by 30^{*1} の達成に向けた施策の一環で、民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域を「自然共生サイト」として認定する制度を 2023 年度より開始しました。

袖ヶ浦 LNG 基地は、1973 年に操業を開始し、管理計画に基づく適切な緑地管理や生態系調査を継続しており、地域自然と調和を図りつつ事業運営を行ってきました。今回の認定は、これらの取り組みに裏付けられた多様な生物種^{*2}の生育・生息の場になっていることが評価されたものと考えています。

東京ガスグループは、自然の恩恵の重要性を認識し、将来にわたり享受し続けるために、環境方針に「生物多様性の保全と持続可能な利用の推進」を掲げ、地域社会と連携した生物多様性の保全活動に取り組んでいます。

今後も活動を進め、サステナビリティ経営を推進するとともに、環境省が掲げる 30by30 の達成に貢献していきます。



袖ヶ浦 LNG 基地の全景と「自然共生サイト」に認定された緑地（着色部分）



常緑樹や草本、低木が生育し昆虫の生息場となっている



環境省のレッドリストで準絶滅危惧に
指定されているタシロランの花

*1 : 2030 年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させるというゴールに向け、陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする国際的
目標。

*2 : これまでに約 30 種の野鳥、230 種を超える昆虫類、260 種を超える植物を確認。

以上